

セントラルパーク

基本計画



令和元年 6 月

福岡県・福岡市

セントラルパーク基本計画検討委員会 委員名簿

(行政を除き五十音順、敬称略)

氏名	役職名
【委員長】 杉本 正美	九州芸術工科大学 名誉教授
【副委員長】 蓑茂 壽太郎	一般財団法人公園財団 理事長
伊東 順二	東京芸術大学社会連携センター 特任教授
小田 富士雄	鴻臚館跡整備検討委員会 委員長 (福岡大学 名誉教授)
古賀 弥生	九州産業大学地域共創学部地域づくり学科 教授 アートサポートふくおか 代表
高瀬 哲郎	福岡城跡整備基本計画検討委員会 委員 (元 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長)
辰巳 浩	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授
横山 秀司	九州産業大学商学部観光産業学科 フェロー教授
石井 幸孝	NPO法人 福岡城市民の会 理事長
酒見 俊夫	福岡経済同友会福岡地域委員会 委員長
船津 正明	大濠公園をよくする会 代表世話人
内川 克郎	財務省福岡財務支局 管財部長
井浦 義典	国土交通省九州地方整備局 建政部長
宇都宮 博文	国土交通省九州運輸局 観光部長
高原 稔	福岡県 商工部観光局長
中尾 良教	福岡県 建築都市部長
吉田 法稔	福岡県教育庁 副教育長
高島 収	福岡市 経済観光文化局長
石橋 正信	福岡市 住宅都市局長
池見 雅彦	福岡市 中央区長

目 次

第Ⅰ章 計画の前提	1
1. 背景と目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	2
2. 対象エリア	3
3. 計画期間	4
第Ⅱ章 基本方針	5
1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性	5
(1) 基本理念	5
(2) 基本的な方向性	5
2. 基本方針	6
3. 実現すべき公園像	7
(1) 利用者像	7
(2) 利活用イメージ	7
第Ⅲ章 実施方針	20
1. 利活用イメージの展開	20
(1) ゾーニング	20
(2) 主要な動線	23
(3) 主要な施設	24
(4) 実施方針図	26
第Ⅳ章 管理運営計画	28
1. 基本的な考え方	28
(1) 管理運営の方向性	28
(2) 管理運営主体	28
2. 企画運営	29
(1) イベント・利用プログラム	29
(2) 情報発信	30
3. 共働の公園づくり	31
(1) 市民共働の運営体制づくり	31
(2) 民間活力による財源確保と魅力づくり	34
(3) まちづくりとの連携	35
4. 維持管理	37
(1) みどりの管理	37
(2) 歴史資源の管理	38
(3) 施設管理	38

第Ⅴ章 整備計画 ----- 39

1. 基本的な考え方 -----	39
2. 周辺地域の整備の方向性 -----	40
(1) 整備の考え方 -----	40
(2) 展開イメージ -----	42
3. 両公園の整備の方向性 -----	43
(1) 整備の考え方 -----	43
(2) エリア整備計画 -----	44
(3) 施設整備計画 -----	53
(3) - 1. 園路計画 -----	53
(3) - 2. 修景計画 -----	54
(3) - 3. 休養施設計画 -----	55
(3) - 4. 遊戯施設計画 -----	56
(3) - 5. 便益施設計画 -----	57
(3) - 6. 管理施設計画 -----	61
(3) - 7. サイン計画 -----	62
(3) - 8. 災害時における公園の役割 -----	63
4. 全体計画 -----	64

第Ⅵ章 将来像の実現に向けて ----- 65

1. 事業の進め方 -----	65
(1) 短期（概ね10年間） -----	66
(2) 短期（概ね10年後）以降 -----	66

第 I 章 計画の前提

1. 背景と目的

(1) 背景

①セントラルパーク構想

福岡県の総合公園である大濠公園は、豊かな水辺と美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化の香る空間であり、水辺一帯が近代の国登録の記念物となっています。一方、福岡市の総合公園である舞鶴公園は、古代の国指定の史跡「鴻臚館跡」、近世の国指定の史跡「福岡城跡」などの歴史があり、貴重な自然が残された場所となっています。大濠公園・舞鶴公園は都心部に隣接する貴重なオープンスペースであり、それぞれが多様な魅力を持つ都市公園として、これまで多くの県民・市民に親しまれてきました。

このように隣接する大濠公園と舞鶴公園に対して、福岡県・福岡市の上位計画である総合計画に基づき一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として、歴史・芸術文化・観光の発信拠点として公園そのものが広大なミュージアム空間となり、人々に感動を与えるような公園づくりを目指すため、「セントラルパーク構想」^(※1)を平成26年6月に策定しました。

②セントラルパーク構想策定以降

最近では人口増加や観光客・MICE^(※2)参加者の増加、企業立地の増加などを背景に、様々なまちづくりの取り組みを推進しています。そのような中、両公園は都心の「オアシス」として、周辺との機能連携や回遊性の向上、緑のつながりの強化などへの期待が高まっています。また、歴史を象徴する福岡の「ランドマーク」としての魅力づくりが求められています。

一方、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景とし、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限引き出すため、平成29年には、都市公園法の一部改正による公募設置管理制度（Park-PFI）が新設されました。この制度は、民間施設の収益を公園整備に還元させることを特徴とし、都市公園への民間投資の誘導、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性向上を図ることが期待されています。

今後は、多くの関係者の共働によって、公園の価値を最大化するための公園のマネジメントを進めることが一層求められています。



図：周辺からみた両公園の位置付け

(2) 目的

本計画は、「セントラルパーク構想」に基づき、大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し、基本理念「時をわたり、人をつなごう ～未来へつながる福岡のシンボルへ～」を実現するための具体的な方策を明らかにするものです。

計画策定にあたっては、両公園の特性に配慮しながら、多様化した公園利用者のニーズに対して柔軟に対応することが必要です。また、市民、企業、行政、NPO などの様々な主体がそれぞれの力を活かした協働の仕組みによって、両公園に関わる諸要素を総合的に活用し、様々な取組みを継続・発展させて、本公園にふさわしい実現すべき公園像を導くことが求められています。

このような考え方に基づいて本計画では、将来の実現すべき公園像に向かって、再整備と管理運営を一体的に捉え、両公園の利活用を継続・発展させていく公園マネジメント^(※3)の視点から、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルを繰り返し、社会の変容に対応して継続的な改善を加え進めることで、両公園の魅力をさらに高め、都市の活性化につながる公園づくりを目指します。

大濠公園・舞鶴公園の魅力向上
都市の活性化

実現すべき公園像



図：セントラルパーク基本計画の概念図

(※1) セントラルパーク構想とは

「セントラルパーク」といえば、ニューヨークのセントラルパークが想起されます。

ニューヨークのセントラルパークは、ニューヨークの都市づくりが始まろうとする 150 年前に、都市の中心に先行的に大規模な公園を整備することによって、公園を中心とした市街地形成を図った計画的な都市づくりのモデルとなっています。

今日では、緑豊かな憩いの空間というだけにとどまらず、都市の文化を物語る上で欠かせないシンボルとして年間 3,500 万人の観光客を引き寄せ、都市の活性化に大きく貢献しています。

「セントラルパーク構想」は、福岡を取り巻く環境が変化し都市の再デザインが求められる今日、大濠公園・舞鶴公園の中心性、シンボル性を活かして、都市のブランド化や県民・市民の参加など、総合的なまちづくりにつながることを目指して平成 26 年 6 月に策定しました。

(※2) MICE とは

MICE とは、Meeting(企業等の会議)、Incentive travel(報奨旅行)、Convention(国際会議等)、Exhibition/Event(展示会・イベント)の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

(※3) 公園マネジメントとは

公園計画の段階から実現すべき公園像を具体的な目標として定めること、その目標を達成するため公園の行政、法体系の仕組みやこれらに関わる組織・人材、環境・資源などを有効に活用するための計画を立て、それを遂行しながら、結果・成果を評価し、必要に応じて計画内容や事業内容を修正・調整するという一連の流れの中から、あるべき公園像を実現すること。

(出典：「公園管理ガイドブック改訂版－公園管理運営のための必携書－」，一般財団法人公園財団，平成 28 年 11 月発行)

2. 対象エリア

本計画は、大濠公園と舞鶴公園を対象とします。

なお、西公園や南公園、天神や大名、六本松などの周辺地域との緑のつながりや機能連携なども考慮する必要があるため、周辺に視野を広げた取り組みも含めて検討します。



図：対象エリア



3. 計画期間

本計画は、構想における中期的な取り組み（構想図）を具体化した全体計画を定めるものとします。この計画の進め方は、公園の拡張や史跡の復元整備を踏まえ、両公園の連続性、利用者の回遊性・快適性の向上、公園の魅力づくりなどを考慮しながら、段階的に整備を行うこととします（参照：第Ⅳ章 将来像の実現に向けて）。なお、短期（概ね10年間）の計画についても本計画において整理します。

第Ⅱ章 基本方針

1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性

「セントラルパーク構想」では、基本理念と基本的な方向性が以下の通り掲げられています。

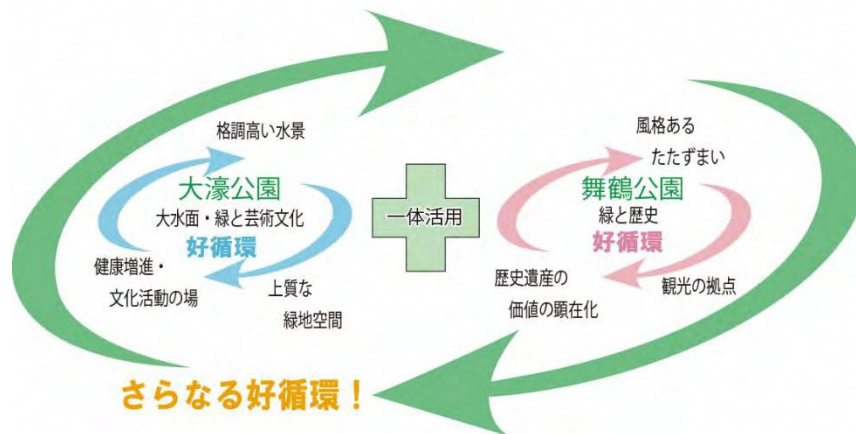
(1) 基本理念

福岡を代表する特性を有する二つの公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し、

時をわたり、人をつなごう。
～未来へつながる福岡のシンボルへ～

を基本理念として掲げます。

大濠公園と舞鶴公園が持つ特性を磨き上げるとともに、二つの公園の一体的な活用を図ることとでさらなる好循環を生み出し、都市の活性化につなげていきます。



(2) 基本的な方向性

本計画に求められている課題を解決し、福岡の都市の個性と文化を物語る場所となるよう、基本的な方向性を次のように設定します。

- 大濠公園・舞鶴公園一帯の**空間をつなぎ**、一体感のある緑地空間づくり
- 福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の**時をたどる**空間づくり
- 観光集客機能の向上による**にぎわいをつくり**、都市の活性化につなげる拠点づくり
- 「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、**みんなで育てる**公園づくり

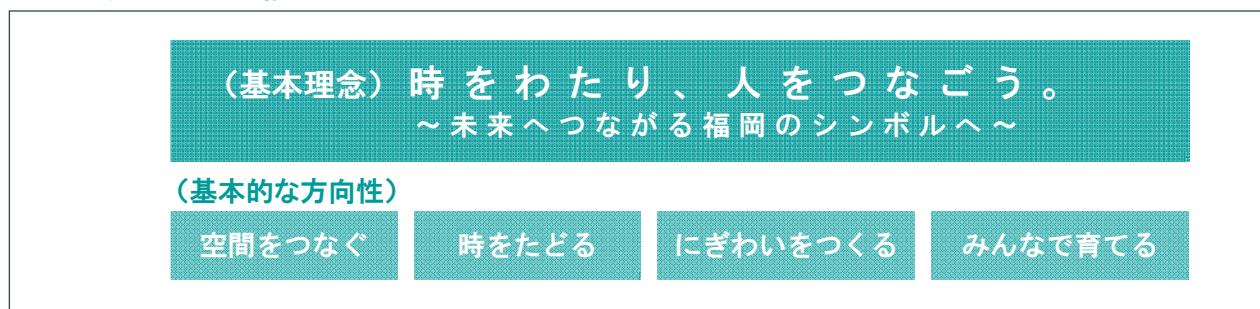
2. 基本方針

大濠公園と舞鶴公園には、みどり、歴史、芸術文化の魅力あふれる資源があります。また、周辺ではビルの建て替え等、開発が進んでおり、人口・観光客数ともに増加している状況から両公園の利活用に対する期待感も高まっています。

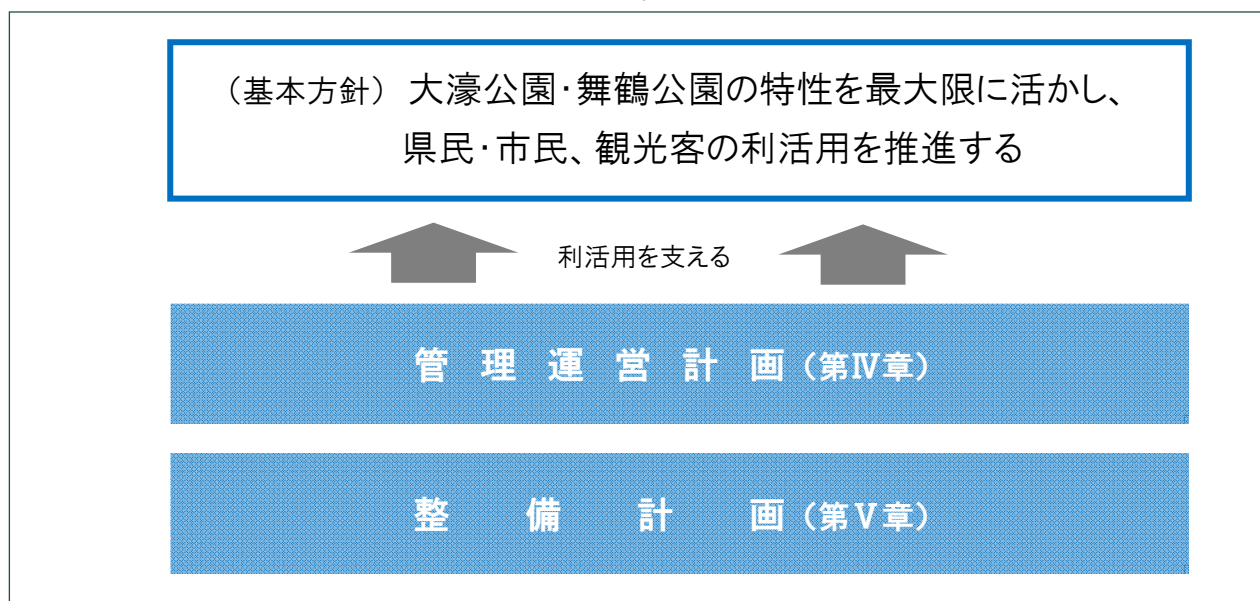
セントラルパーク構想策定以降両公園では、イベントをはじめとする四季の魅力づくりや賑わいづくりなどを試行的に取り組んできました。その結果、両公園の認知度の向上や来園者の増加がみられ、公園の魅力向上や都市の活性化には、利活用の推進が不可欠であることが認識できました。

本計画では、セントラルパーク構想における基本理念と基本的な方向性に基づき、両公園の魅力あふれる特性を最大限に活用することで、県民・市民・観光客による様々な利活用の推進を第一に捉え、公園マネジメントによって、管理運営計画、整備計画を定め、将来にわたって継続的に両公園の魅力を高めていきます。

セントラルパーク構想



セントラルパーク基本計画



図：計画の構成

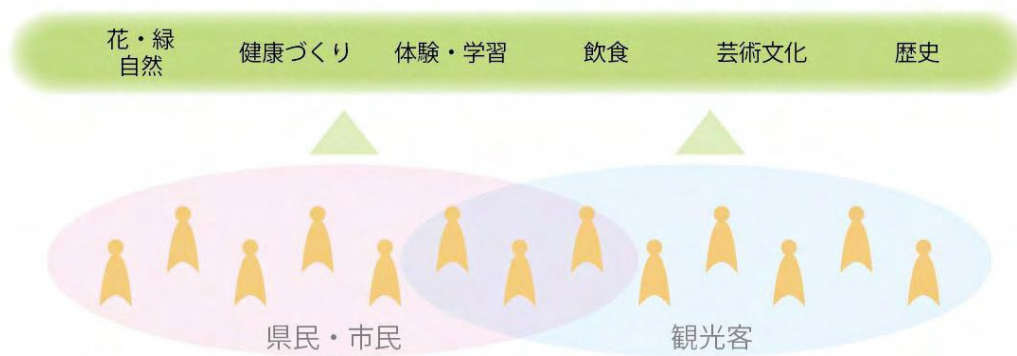
3. 実現すべき公園像

(1) 利用者像

本計画では、両公園の持つ特性を最大限活用し、一年を通してにぎわいが感じられる公園としていくため、県民・市民と観光客という大きく二つの利用者像を設定します。

県民・市民に対しては、憩いの空間としての拠点化を目指し、都心部のオアシスとして貴重なみどりやオープンスペースなどの活用を推進します。

観光客に対しては、集客・観光の拠点化を目指し、福岡の「ランドマーク」として歴史や芸術文化などの活用を推進します。



図：利用者ニーズの想定イメージ

(2) 利活用イメージ

構想で定めた基本的方向性を具体化した 12 の利活用イメージを示し、様々な利用者のニーズに応じた公園の利活用を実現していきます。

また、具体的な管理運営や整備を行っていく上での指針とします。



図：利活用イメージの視点

利活用イメージ① 利用者に愛される公園

■利用者： 公園の近くに住む親子

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 思えば、物心ついたときからセントラルパークは私の遊び場だった。祖父の散歩についてきては、日が暮れるまで園内を走りまわっていた記憶がある。
- ・ そして夕暮れ時に、二人でベンチに腰掛け、水辺を見ながら**様々な野鳥**の名前を教えてもらったり、**植物や虫**の名前を教えてもらったりしたものだった。
- ・ あれから私は父となり、小さな2人の子どもを連れて、相変わらずこの場所に通っている。
- ・ 今子どもたちと一緒に座っている**ベンチは、昔祖父とよく座った場所に、子どもが生まれた年に寄付した**ものだ。ベンチには子どもの生年月日を刻印してもらっている。将来孫が生まれたら、自分と子どもと孫と一緒に座りたい。
- ・ この公園は子供からお年寄りまで誰にでも快適に利用できるようデザインが工夫されているため、私はずっと通い続けるだろう。
- ・ 祖父はセントラルパークが私たちにとって**憩いの場**になっているだけでなく、**災害時の避難場所**になっていることも教えてくれた。今は私が子どもたちに、災害があったときにはここに逃げるように、と教えている。
- ・ 私が祖父にそうしてもらったように、子どもたちにとって、ここが大人になっても大切な場所であるように、たくさんの思い出をつくってあげたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 公園に対する愛着を醸成する仕組み
- ・ 利用者が寄付などによって公園運営に貢献できる仕組み
- ・ ユニバーサルデザインの推進
- ・ 広域避難場所としての周知や機能確保

利活用イメージ② 休日を過ごしたくなる憩いの場

■利用者： 車でピクニックに訪れた家族連れ

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 連休を利用して、愛犬を連れ、家族4人セントラルパークにピクニックにやってきた。
- ・ 車で公園に近づくにつれて、**道沿いの緑が増え、店舗は統一感のあるおしゃれな外観**で揃えられている。さらに進むと、豊かな緑や史跡の風景が見え、その脇に公園の入口が見えてきた。
- ・ 入口に近づくと、駐車場への誘導サインがすぐに目に入った。満車で入庫待ちを予想していたが、スムーズに停めることができた。**十分な駐車スペース**は、小さな子どもがいて荷物が多い家族にはとてもありがたい。
- ・ 車を降りると、**花や緑で彩られた園路**が続いており、花壇では**ボランティア**と思われる人たちが楽しそうに手入れをしている。花が大好きな娘は一緒に花を植えてみたいようだ。園路もランナーや自転車に気を使わず散歩することができ、愛犬も満足そうだ。
- ・ 以前は住宅が建っていたという**広場**に着くと、連休とあって**多くの人でにぎわっている**。読書をする女性、走りまわっている子どもたち、楽器の練習をしている学生と、みな思い思いの時間を過ごしている。
- ・ 私たちもさっそく美しく管理された芝生の上で**お弁当を広げ、大濠公園の水面や福岡城の石垣の風景を楽しみながら食事をする**ことにした。豊かな自然の中で、歴史の雰囲気を感じながらのんびりしていると、福岡の都心にいるということを忘れてしまいそうになった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺地域と連携した緑化推進
- ・ 街並みや建物の低層部の用途誘導
- ・ 車両にもわかりやすいエントランスの整備
- ・ 適切な駐車台数の確保
- ・ 季節感を楽しむことができる花々の演出
- ・ 施設移転跡地の広場活用
- ・ 石垣や水面への見通しの確保
- ・ みどりや芝生の適切な管理

利活用イメージ③ ボランティアの舞台

■利用者： ボランティア

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・今日は花壇の植え替えを行うためにセントラルパークにやってきた。私は**ボランティア組織**「(仮称) セントラルパークを育てる会」のメンバーとして、活動している。
- ・以前からそれぞれボランティアが組織されていたが、数年前に**二つの公園が一貫した管理運営**が行われるようになったことをきっかけに、**ボランティアも一つの組織として統一**されることとなった。
- ・もちろん、それぞれのボランティア活動は継続されつつ、今日の花壇の手入れのように、**両公園で一貫した活動**も行われるようになった。おかげで、花壇などは景観的にも統一感があるように感じられ、来園者も季節ごとの変化を楽しんでもらっているようだ。
- ・公園管理者や公園内施設関係者、ボランティアなどの**連絡体制も整理**されたため、**色々な組織と連携した活動**も充実している。
- ・また、私たち**ボランティアの活動拠点**も公園内にできたので、着替えや活動の準備だけでなく、日常的な連絡事項の確認や情報共有もスムーズにできるようになった。
- ・施設の整備や共通の活動のおかげで、ボランティア同士の**交流**も増え、最近**は組織としての一体感**も出てきたように感じる。
- ・これからも活動を通して、ボランティア同士の交流を深めながら、セントラルパークの環境を育んでいきたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・両公園で連携した管理運営体制の確立
- ・両公園の様々な関係者間での連絡体制の整理
- ・ボランティア活動の拠点となる施設の整備
- ・組織間での連携が行いやすい環境づくり

利活用イメージ④ 都心部の生き物の大きな家

■利用者： 周辺の小学校教員

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・セントラルパークは都心部の中で豊かな水と緑があるため、**様々な生物と触れ合うことができる貴重な場所**だ。
- ・そのため、**総合学習**の一環として周辺の学校の多くがセントラルパークに訪れている。
- ・私が勤めている学校でも毎年訪れており、生徒達も恒例の授業として楽しみにしている。
- ・最近、管理運営の一環として、**生物多様性の保全と来園者が自然とふれあえる環境づくり**が盛んに行われるようになってから、鳥の増加や多様な植生が見られるようになっていく。また、生物の専門家のボランティアガイドの方々が生徒達に様々な生物の生態などについて教えてくれるプログラムも設けられている。
- ・生徒達に特に人気があるのは**水辺を活用**した観察プログラムだ。都心部では珍しく**安全に水辺に近づく**ことができ、普段は間近で見ることができない動物や植物を観察することができるため、生徒達は目を輝かせて参加している。
- ・他にも、**季節の植物**を楽しむ観察プログラムや珍しい植物、大木・古木などの植物に関わるプログラムも豊富にあり、プログラムごとに様々な自然の魅力を伝えてくれる。
- ・セントラルパークが都心部で自然にふれあえる貴重な場所であり続け、その魅力を維持・向上して行くことが子ども達の成長につながると考えると、公園や周囲の環境保全に貢献していきたいと感じる。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ボランティアガイドが活動しやすい環境づくり
- ・生物の生育環境の保存と向上
- ・公園の特性や参加者のニーズに合わせた利用プログラムの増加
- ・水辺を活用したイベントやプログラムの増加

利活用イメージ⑤ ジョギングの聖地

■利用者： 仕事帰りのジョガー

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・19時。いつものように、スーツからランニングウェアに着替え、コースに出る。運動不足解消のため、**仕事終わりにセントラルパークをジョギング**したのが始まりだった。
- ・公園内には**ランニングステーション**があり、ロッカーはもちろんシャワーも完備してあるので、仕事終わりにスーツ姿で直行できるのがとてもいい。
- ・大濠公園は以前からジョギングやウォーキングをする人が多かったが、**舞鶴公園も含めたコース**が作られてから、さらに利用する人が増えた。コースが広がったことで、**緑の風景、水辺の風景、歴史の風景**と様々な風景を楽しむことができ、飽きずに気分良く走れることが理由の一つだろう。
- ・もう一つの理由は**安心して走れる**ということだ。ここは、歩行者、ジョギング、ペット、自転車と様々な人が利用しているが、舗装や路面表示など**利用者に応じたコース作り**が徹底されていて、結果的に**マナーも守られている**というわけである。また、園内は**ライトアップ**もされていて、**女性や高齢者も安心して**利用できるため、夜間の利用者も多い。
- ・さらに、ジョガーの間で人気に火をつけたのが、**周辺にあるスポーツショップ**である。お洒落で機能的なウェアやアイテムを身に着け、この場所で体を動かすということが**ブランド化**してきている。
- ・最近では、体力もついてきたため、**休日には西公園や南公園方面まで走る**ようになった。西公園や南公園までをつなぐ通りは歩きやすく、緑にあふれ、**立ち並ぶ店舗も公園の雰囲気**に合ったお店が多くなった。
- ・自分自身の健康のために始めたことが、今やセントラルパークのブランドを形作っていると思うと、今後もさらに気分よく走れそうだ。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ランニングステーションなどの便益施設の設置
- ・舞鶴公園のジョギングコースの設置、動線の一体化
- ・利用者ニーズと安全性に配慮したコース設定
- ・公園周辺の施設との連携
- ・公園のブランド化
- ・周辺との緑のつながりの確保

利活用イメージ⑥ 古代より連なる福岡の歴史舞台

■利用者： 歴史好きの来訪者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・月に一度の妻とのまちあるきは、福岡の歴史を巡る旅がテーマである。
- ・今までに太宰府市の古代の史跡と、朝倉市の秋月城下町を巡った。今日は**博多や天神の黒田家ゆかりのコース**を歩き、**福岡の歴史のシンボルである鴻臚館跡と福岡城跡**に向かう。
- ・西公園から眺める福岡の街並みは、水と緑であふれており、セントラルパークへは**歩いていく**ことにした。
- ・セントラルパークまでやってくると、**ガイダンス施設**があったので、まずは概要を知ることにした。施設内の展示物や地図には、**鴻臚館跡と福岡城跡それぞれの歴史や、周辺の関連史跡との歴史的なつながり**がわかりやすく解説されている。古代には鴻臚館と大宰府を結んでいた官道があったと知り、その時代の姿に思いを馳せた。**黒田家とその分家が拠点としていた福岡城と秋月城**の関係も興味深い。
- ・私たちはガイダンス施設で**ボランティアガイドの人に案内**を頼むことにして、**複数あるプログラム**の中から、目的に合った、鴻臚館跡・福岡城跡双方の歴史を学べるものを選んだ。
- ・ガイドの人の説明を聞きながら、鴻臚館跡の復元整備や福岡城跡の石垣などのポイントを見ていくと、この地にある**歴史の重層性**が分かり改めて福岡という地の面白さを感じた。
- ・歴史好きの友人との話の種になるだろうと**お土産も購入**した。
- ・一通り見て回ったあと、**園内の休憩所**で昼食をとることにした。休憩所では**鴻臚館跡と福岡城跡の両方を見ながら食事**をすることができ、私は当時の人々の様子に思いを馳せながら、妻はおいしい食事に感動しながら、互いに満足した時間となった。
- ・ガーデニングが好きな妻は、公園内の樹木がよく手入れされていることにも感心していた。私たちが各施設に支払った料金で手入れの行き届いた環境が保たれているそうだ。
- ・福岡の都心部でまちづくりが進み、にぎわいが増えるなかで、セントラルパークは**都心のオアシス**として、多くの人が憩い、**地域の誇り**として大切に利用されている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺の歴史資源との連携
- ・ シンボルとしての遺構の復元
- ・ ガイダンス施設の設置
- ・ 櫓や石垣などの見所の魅力向上
- ・ 歴史の重要性を感じる復元整備
- ・ 公園周辺から連続的に散策、回遊できる空間形成
- ・ 利用プログラムの充実

利活用イメージ⑦ アート巡りの拠点

■利用者： 県外からアート作品巡りに訪れた人

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・日本の芸術や文化に興味があり、美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設が集まっていることで有名なセントラルパークに、休みを利用して一人訪れた。
- ・福岡空港や博多駅などの交通拠点から、地下鉄一本で最寄駅まで行くこともできるが、今回は天神駅で降りて、ショッピングを楽しみながら歩いて向かうことにした。
- ・天神駅から公園に向かう途中にはギャラリーやセレクトショップが多く、セントラルパークを中心として**まち全体からアートの雰囲気**を感じる。公園に近づいてくると**緑豊かな景色**が広がり、**公園内を巡りたくなる**気持ちが高まる。
- ・私の場合、各施設の情報や見所について、英語のホームページで事前に調べていたので特に不安はなかったが、園内には総合案内板をはじめ、**随所に丁寧な案内**がなされているので、初めてきた人も安心するだろう。
- ・公園の総合管理事務所で受け取った、**芸術文化をテーマとするパンフレット**を見ると、そこに書かれた**コース**に沿っていけば、様々なアートに出会えるようになっている。
- ・日本庭園に入って、庭を眺めながら抹茶と和菓子をいただき、日本文化について考えるいい機会となった。
- ・また、**園路沿いの小さな広場**では、大道芸や楽器演奏などの**小規模なアートイベント**が行われており、公園に遊びに来ていた**子どもたちは**、食い入るように眺めている。小さな頃から**身近でアートに触れ合える環境**があるのは素晴らしいことだと思う。
- ・セントラルパークを楽しんだ後は、バスで**福岡市博物館に行く**予定だったけれど、公園の中にいるような福岡の街の景色を楽しみながら引き続き歩くことにしよう。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・芸術文化に関わる施設の強化
- ・公共交通からのアクセス向上
- ・エントランス部の魅力の向上
- ・テーマごとの散策コース設定
- ・日本庭園の認知度向上
- ・小規模イベントが行える広場の確保
- ・情報発信の強化
- ・公園内のわかりやすい情報案内
- ・合同管理事務所の設置
- ・芸術文化施設の広域的な連携の強化

利活用イメージ⑧ アジアを代表する観光地

■利用者： 海外からの観光客

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 夏休みの家族旅行で福岡を訪れている。前にも一度、団体ツアーで訪れたことがあるが、**自然も文化も豊かな福岡の街**が忘れられず、今回は家族だけで再訪問することにした。
- ・ 天神からバスに乗りセントラルパークに着いた。前に訪れた時は、**大型バス用の広い駐車場**から公園に入ったが、今回はまち歩きを楽しみながら歩いて公園に訪れた。公園内は**水と緑が豊か**で美しく、**構造物のデザインにも統一感**があって、福岡の人がこの両公園を愛していることが、デザインからも見てとれる。
- ・ 公園内の**サインが多言語で書かれていたり、多言語表記に対応したデジタルサイネージ**が設置され、私たちのような海外からの観光客にもわかりやすいのがあるがたい。
- ・ 公園の見所の一つである**鴻臚館跡**では、遠い昔に大陸から訪れた客人が、ここでどのように迎え入れられたか、歴史をたどることができる。語学だけでなく歴史にも通じた**通訳ガイド**に案内を頼むこともでき、この場所の歴史だけでなく、母国との関わりまで深く理解することができた。各ポイントには**絵や図、VR・ARなどのデジタル技術を用いた解説が設置され、古代の風景をイメージしながら現在の風景と比較**すると、アジアの先進都市である福岡の歴史の深さを感じた。
- ・ 着物体験や乗馬体験、多聞櫓でのワークショップなど、**歴史的な風情を体感できるソフトプログラム**も豊富にあり、一日滞在することができそうだ。
- ・ 園内では**Wi-fi**が整備されているのはもちろん、ビューポイントには史跡に配慮してカメラ台が置かれていて、リアルタイムで母国にいる知り合いにその様子を楽しんでいる自分の姿を伝えることができた。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 外国人観光客の誘致と利便性の向上
- ・ 施設利用料金の徴収
- ・ 大型バス駐車場の確保
- ・ 飲食、物販などの便益施設の検討
- ・ 構造物のデザインの統一
- ・ 鴻臚館跡の交流空間としての機能復元
- ・ 多言語表記やピクトグラム等による外国人観光客への情報提供
- ・ 当時の様子を彷彿とさせる解説サインの設置

利活用イメージ⑨ 福岡でのイベントならセントラルパーク

■利用者： イベント企画者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・近年、**福岡で大規模イベント**を開催するならセントラルパークで、というのが企画・運営関係者の間で通例になっている。
- ・その理由は、立地も良く**イベントしやすい環境**が整っていることにある。福岡の都心で大規模イベントできるスペースが増えたことに加え、交通拠点からアクセスしやすく、さらに**跡地を利用した広場**で、自然や歴史の雰囲気に触れながら、にぎわいイベントを楽しめるとあって、イベント参加者からの評価が高いからだ。
- ・最近では、**天神や博多エリア、護国神社**で行われていた**既存のイベントと連携**する機会が増えており、新しく生まれ変わった**六本松エリア**とは、特に連携する機会が多くなった。
- ・フリーペーパーや雑誌などの**メディアを活用した頻度の高い広報**や、**イベント企画者と公園管理者の協働**により、**受入れ人数の増加**や**新たなターゲットの確保**、**プログラムの充実**が図られ、経済効果も大きくなっていると、他県からの問い合わせも増えている。
- ・これらの協働の積み重ねによってセントラルパークの**知名度**も上がり、今では観光・集客資源として、福岡の活性化の一翼を担っている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・交通拠点からのアクセス向上
- ・様々なイベントに対応できる広場空間の整備
- ・イベントをしやすい仕組みづくり
- ・イベント企画者と公園管理者の連携
- ・周辺地域との連携

利活用イメージ⑩ 市民・企業連携のステージ

■利用者： 周辺のヨガスタジオ経営者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

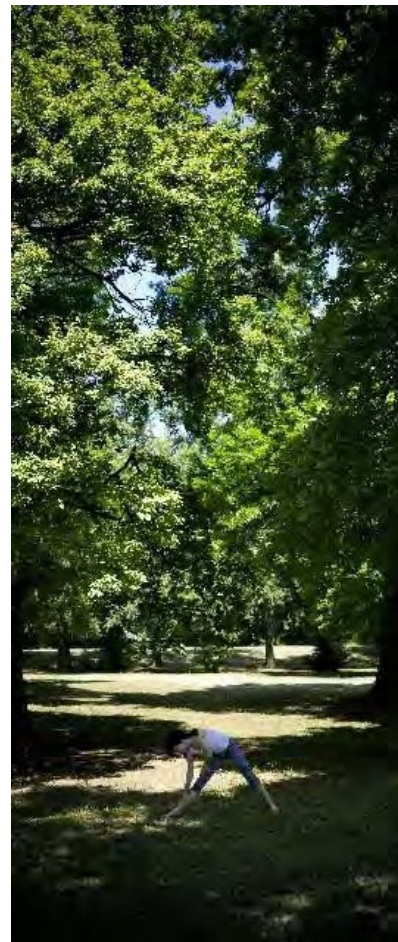
空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・私はセントラルパークの周辺でヨガスタジオを経営している。経営を始めた頃はマンションの1室を使用した小さなスタジオだったが、今ではビルの1フロアの広さになりヨガウェアなどを扱うショップも併設した、福岡でも有数の大きなスタジオになった。
- ・スタジオの生徒数が増えたのは、セントラルパークがきれいになって、大手門側からも**アクセスしやすくなり**、公園への人の流れが増えたからだと思う。
- ・スポーツショップやジョギングステーションなど、**公園の機能と一体となった店舗が公園周辺部で増加**しているのも同じ理由だろう。
- ・何年か前から、**公園内で野外レッスン**も行うようになり、広い緑の芝生のうえで行うヨガはとても気持ちがいいと、特に若い女性に人気だ。
- ・生徒以外でも公園内でヨガをする人たちが、ウェアやマットを買いにくるので、ショップもにぎわっている。
- ・という訳で、セントラルパークにはとても魅力を感じているため、数年前から**公園に寄付**をし始めた。寄付金の一部が、私たちがヨガを行っている**広場の管理**に使われていると思うと、**寄付のしがいがある**。
- ・ショップカードや私の名刺には、寄付をした特典として、**セントラルパークのロゴ**が入っているので、初めて会う人との話の種になって助かることもしばしばある。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・公園の魅力を活用した周辺企業との関わり強化
- ・利用者が活動しやすい芝生広場の確保
- ・市民や周辺企業と連携したイベントの実施
- ・企業からの寄付などを初めとした公園運営の仕組みづくり

利活用イメージ⑪ 魅力づくりに貢献したくなる公園

■利用者： 周辺の土地所有者

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

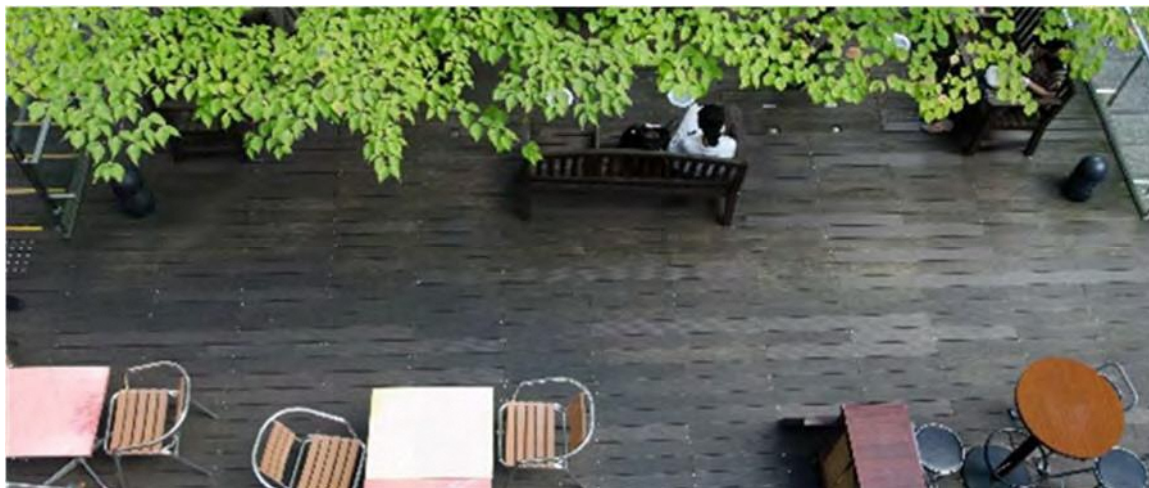
県民・市民

観光客

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・お堀沿いの道を歩くと、いつも公園に**立ち寄りたいという気持ちになる**。光を反射した水面に木々が影を写し、夏には蓮の花が咲き、訪れた人の**撮影スポット**となっている。
- ・私がオーナーであるセントラルパーク沿いのビルには、テナントとしてカフェが入っている。カフェにはテラス席があり、**水や緑、史跡の雰囲気を感じながら食事を楽しめる**ため、テラス席を予約するお客さんが多い。
- ・このように、**明治通りに並ぶ店舗やオフィス、周辺の住宅地などは、立地をうまく活用した建物が多い**。大きな公園に近く、窓から水と緑の風景を楽しむことができる環境は、商業施設はもちろんオフィスや住宅の環境としても魅力的だ。
- ・セントラルパークには**ファンドレーザー**という寄付金を回収する専門家の存在があり、私のような土地所有者や企業、個人などが寄付を積極的に行っている。
- ・私は**手入れの行き届いた美しい公園**の景色を眺めると、寄付金が適切に使われているといつも実感する。**セントラルパークが魅力的であるほど私が持っているビルも含めた周辺の地価が上がり**、ひいては**福岡のまちの活性化**に貢献していることを考えると、寄付は投資のような側面も持っている。
- ・寄付の金額によって、セントラルパークの定期通信やイベントへの特別招待、オリジナルグッズの限定販売など、**様々な特典**を受けられるのも寄付のしがいがある。
- ・これからも、周辺に住まう私たちにとっても、ゆとりのある環境であり続けてほしい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・沿道から魅力を感じられる空間づくり
- ・水辺の魅力の向上
- ・公園及び周辺の資産価値の向上
- ・公園の魅力の波及範囲の拡大
- ・寄付をはじめとした公園運営に関わる専門家の配置

利活用イメージ⑫ 福岡のランドマーク「セントラルパーク」

■利用者： 国際会議の出席者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・国際会議のレセプションとして、福岡のセントラルパークを訪れた。
- ・天神や博多のまちづくりが活発に進む中、**広大な緑や水辺**を持つセントラルパークは、**都心のオアシス**として多くの県民・市民に利用されているという。
- ・この公園は、県民・市民・観光客の様々なアクティビティに対応するため、**四季を通じた多彩なイベントや歴史を活かしたプログラム**が充実しているようだ。
- ・なかでも、古代から現代につながる**福岡の歴史の重層性を体感する**ツアーでは、鴻臚館跡の全体像や福岡城跡の長大な石垣、大濠公園の大水面などの**各時代を象徴する視点場**を案内してもらった。特に、かつて福岡城の城堀であった「大堀」を舞鶴公園から見たときは、両公園の深いつながりを感じた。
- ・レセプションは、**古くから迎賓の場であった鴻臚館跡**にある鴻臚館跡展示館周辺を会場とし、福岡ならではのおもてなしを受け、参加者同士の交流も深まった。
- ・**両公園の特性を最大限活かしたプログラムとそれを支える空間づくり**の裏には、**様々な関係者が共働した公園マネジメント**があり、まさに、県民・市民の愛着と誇り、公園利用者の増加につながっている秘訣だろう。
- ・帰りのバスの中から見た、**ライトアップされた石垣や櫓**の存在は、発展を続ける都市・福岡の中で印象的であった。世界中から人々が集まる歴史・文化・観光の拠点となっているセントラルパークこそ、**福岡のランドマーク**にふさわしい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・城郭として両公園の一体性が感じられる石垣や土塁の顕在化
- ・歴史を体感するソフトプログラムの充実
- ・デジタル技術を活用した解説の充実
- ・沿道からも魅力が感じられる空間づくり
- ・歴史資源の観光・まちづくりへの活用

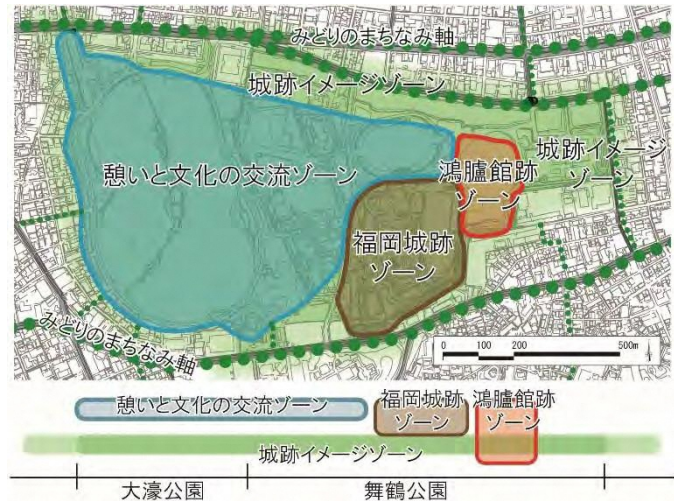
第Ⅲ章 実施方針

1. 利活用イメージの展開

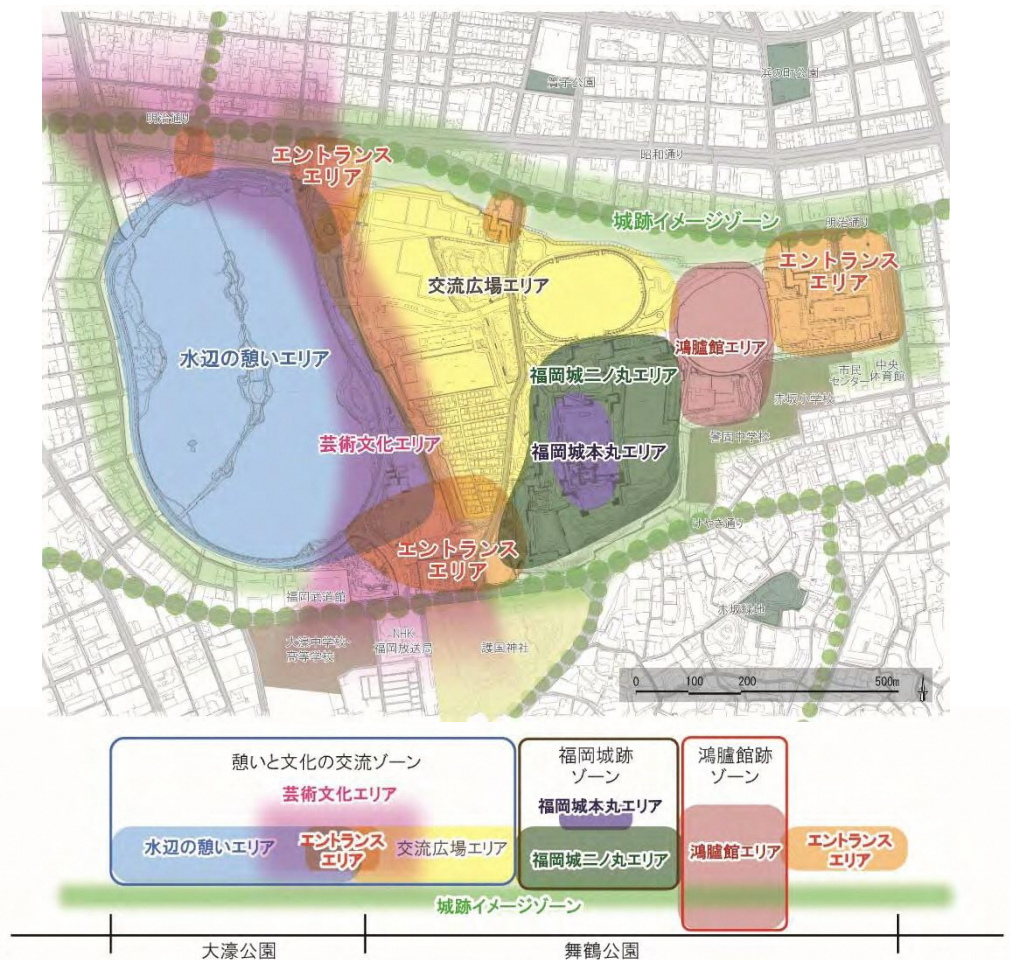
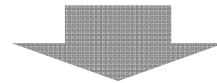
※1 資料編 P115～124 参照

(1) ゾーニング

周辺地域との関係性や両公園における課題（※1）及びセントラルパーク構想における基本的な方向性、利活用の考え方を踏まえてセントラルパーク構想で示したゾーニングを細分化し、セントラルパーク基本計画のゾーニングとします。



図：セントラルパーク構想 ゾーニング図

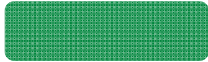


図：セントラルパーク基本計画 ゾーニング図

各エリアの利活用の考え方と、各エリアに関連性が高い利活用イメージを以下に示します。

表：各エリアに対応する利活用の考え方

ゾーン・エリア		利活用の考え方
城跡イメージゾーン	水辺の憩いエリア  <関連性が高い利活用イメージ> ②休日を通りかかるとなる憩いの場 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地	大濠公園の水面とその周回園路を中心とした範囲を「水辺の憩いエリア」とします。 通行レーンの明確化やマナーアップを図ることで、都心での貴重な水辺を感じながら歩行者やジョギング利用者、自転車利用者、ペットの散歩など、様々な利用者がより快適で安心して利用できるようにします。休憩施設や水辺に親しみやすい場所を設け、水景を眺めながら子ども達が安全に安心して遊び、また、水辺の野鳥など自然との触れ合いを通じて、来園者の交流を促進します。
	芸術文化エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ⑤ジョギングの聖地 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地	福岡市美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設、それらをつなぐ空間、周辺地域への広がりを含めて「芸術文化エリア」とします。 福岡の芸術文化施設が連携し相乗効果を高め、福岡の芸術文化発信のための核となるエリアとして位置付けます。 拠点となる施設へのアプローチの向上や施設間の回遊性の向上に加え、芸術文化の雰囲気が現在の施設内のみにとどまらず、パブリックアートやアートイベントなどを介して公園全体やNHK福岡放送局などの周辺施設をはじめ、都市全体への広がりへとつなげていきます。県民・市民の芸術文化への関心と活動を育み、芸術文化分野を中心とした観光の拠点化を図ります。
	交流広場エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ②休日を通りかかるとなる憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ	舞鶴中学校跡地や城内住宅などの非史跡施設の移転跡地と舞鶴公園三ノ丸広場を中心とした範囲を「交流広場エリア」とします。 全てのエリアに接し、既存の広場に移転跡地を加えた都心部最大の広場となり、イベントや様々な利用プログラムなどの充実などにより閑散期を含めて通年来園者が憩い集う交流を育む場所とします。各エリアの接点にあたる場所は優先的に見通しをよくし、大濠公園と舞鶴公園の物理的・視覚的な連続性をもたせることで、一体的な賑わいを育みます。 また、舞鶴公園のボタン・シャクヤク園やフジ棚、ショウブ園などの季節感を感じるみどりを積極的に活用します。
	鴻臚館エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ⑤ジョギングの聖地 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	鴻臚館跡の史跡指定範囲を「鴻臚館エリア」とします。 国史跡鴻臚館跡整備基本計画（策定中）との整合を図り、発掘調査、資料の収集に努めるとともに、復元整備を行うことで、鴻臚館の時代に思いをはせることができる古代の歴史文化の学習の場、迎賓の場としての活用を図ります。 施設の復元までの期間は芝生広場として利用し、段階的に明らかになっていく福岡の歴史の深さを、来園者と共有していきます。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。

城跡イメージゾーン	福岡城跡ゾーン	福岡城本丸エリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城本丸の範囲を「福岡城本丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画と整合を図り、一義的に歴史的建造物などを保存するとともに、福岡城跡の最大の見所として、史跡を活用した利用メニューの充実を図ります。積極的な復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景による城跡の雰囲気演出を図り、来園者が福岡城跡の歴史を感じ、学ぶことができる空間とします。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。 当面は、歴史的な雰囲気の中でサクラを楽しむことができる場としての活用を図ります。
		福岡城二ノ丸エリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城二ノ丸の範囲を「福岡城二ノ丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画との整合を図り、歴史的建造物や庭園などの復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景に努め、来訪者が城らしさを感じられる城郭としての景観保全を重視します。 また、二ノ丸への入口部は公園の園路と適切に連続させるとともに、二ノ丸のエントランスとしての魅力向上を図り、来園者をエリア内に誘導するような雰囲気づくりを行います。
		エントランスエリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑩企業連携のステージ	明治通りと国体道路からの主要な入口とその周辺に加え、天神側からの玄関口となる福岡高等裁判所跡地周辺を「エントランスエリア」とします。 外部からも公園の雰囲気が感じられ、公園の入り口として魅力的でわかりやすい空間を目指し、来園する観光客や県民・市民の期待感を向上させます。 また、来園者への案内機能や公園と地域の魅力を伝えるガイダンス機能などを備えた施設の導入を図り、両公園一体となった情報提供を行うことで、外国人観光客も含めた多様な来園者が、安心してわかりやすく利用できるようにします。 さらに、都心部に近い貴重なオープンスペースとして、災害時の避難場所や避難路などの防災機能の強化を図り、来園者や県民・市民に対する安心・安全を確保します。
		城跡イメージゾーン ＜関連性が高い活用イメージ＞ ①利用者に愛される公園 ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ③ボランティアの舞台 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ ⑪魅力づくりに貢献したくなる公園 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城跡は堀の部分も含めると両公園を合わせた範囲以上に広がっていたことから、両公園全体及び周辺を「城跡イメージゾーン」とします。 周辺からのアプローチやエントランスとしての機能を高めるとともに、都市景観上も重要である沿道や周辺から城跡のイメージを感じられる場所については、門や堀等の復元整備や土塁上の樹林の保全・密度管理など「お城」が感じられる空間づくりを行います。 また、福岡の歴史の重層性が感じられる空間づくりを行い、ゾーンが一体となって来園者に福岡というまちが持つ深い歴史の魅力を伝えるものとします。

資料編 P132~135,167~168 参照

The map illustrates a proposed walking route in Fukuoka City, Japan, starting from the Fukuoka Bay area and traversing through various urban and park spaces. The route is marked with a thick, dashed orange line, with segments in blue, green, and purple. Key landmarks and locations along the route include:

- Waterfront Area:** 水辺の路 (Waterfront Path), 大濠公園駅 (Daikoku Park Station), 唐人町駅 (Tanjinchō Station), 明治通り (Meiji Street).
- Central Area:** お堀をめぐる路 (Path around the Moat), 緑の路 (Green Path), 歴史をつなぐ路 (Path connecting History), 昭和通り (Shōwa Street).
- East Area:** 赤坂駅 (Akasaka Station), 明治通り (Meiji Street), 市民センター (City Center), 中央体育館 (Central Gymnasium), 赤坂小学校 (Akasaka Elementary School), 警固中学校 (Koban Junior High School), けやき通り (Keyaki Street).
- South Area:** 福岡管区気象台 (Fukuoka District Meteorological Station), 福岡武道館 (Fukuoka武道館), NHK 福岡放送局 (NHK Fukuoka Broadcasting Station), 護国神社 (Gokoku Shrine), 大濠中学校・高等学校 (Daikoku Junior High School & High School), 六本松駅 (Rokkumatsu Station).
- Parks and Green Spaces:** 箕子公園 (Yamashiro Park), 浜の町公園 (Hamanaka Park), 赤坂緑地 (Akasaka Green Space).

Legend:

- 路の交点 (Intersection of paths)
- ➡ メインエントランス (Main Entrance)
- バス停 (Bus Stop)

Scale: 0, 100, 200, 500m

図：主要動線図

水景を楽しみながら大濠公園の池沿いを周回し、公園の魅力を感じながら福岡市美術館、能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設を巡ることができます。

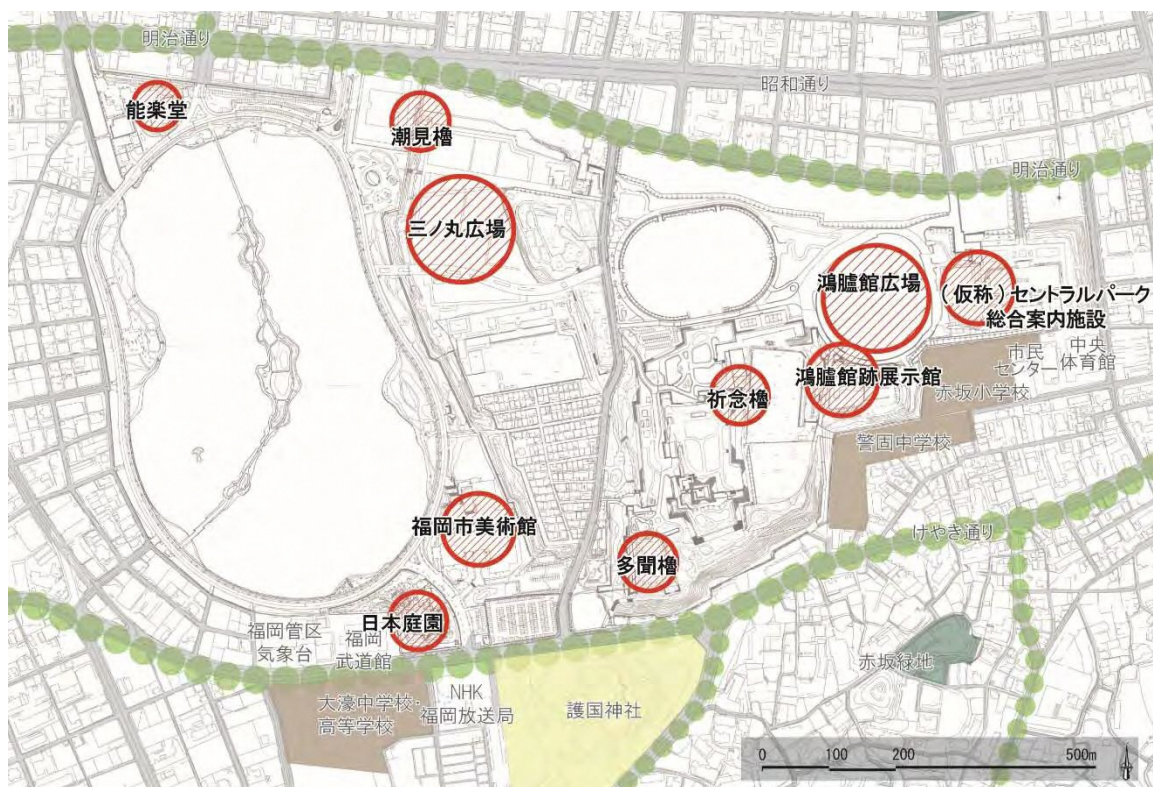
福岡城跡の土塁上に分布する豊かな緑のボリュームを感じ、散策やジョギングなどを通じて、季節により表情が変化する様子を一年中楽しみながら大濠公園・舞鶴公園内を周回することができます。

古代の史跡「鴻臚館跡」、近世の史跡「福岡城跡」、近代の記念物「大濠公園」をつなぎ、来園者が福岡の歴史の重層性を学び、福岡のまちの魅力を知ることができます。

大濠公園と舞鶴公園を大きくつなぎ、大濠公園の水面や舞鶴公園のお堀など福岡城のお堀をめぐることができます。両公園や隣接する街並みなどの沢山の魅力に触れることができ、公園内から周辺への回遊へとつなげます。

(3) 主要な施設

大濠公園・舞鶴公園における主要な施設の考え方は以下の通りとします。なお、各施設間での共通チケットの導入や共同イベントの開催など連携の強化を図ります。



図：主要施設図

①総合案内施設

(仮称)セントラルパーク総合案内施設(新設)

天神側からの玄関口となる高等裁判所跡地には、今後の発掘調査の結果を踏まえて遺構に影響の無い場所に、県民・市民が重層的な歴史資源を理解できる機能を有し、両公園全体を総合的に案内する施設を新たに設置します。

②芸術文化施設

福岡市美術館

展示・収蔵機能の向上やユニバーサルデザインへの対応、大濠公園側のアプローチ、カフェの新設などによるリニューアルを契機として情報発信機能を強化し、内外からの観光客を含めた多くの人々が訪れにぎわいや交流が生まれる施設とします。また、新たなアプローチによる美術館と大濠公園の空間的なつながりを活かしながら、文化芸術に関するイベントなどを通して大濠公園や他の施設と連携することにより、多くの県民・市民が、気軽に文化芸術に親しみ、楽しめる施設とします。

能楽堂

能楽堂で行われている能をはじめとする日本の伝統文化に関わる活動が、イベントなどを通じて公園空間に広がりを見せることで、来園者が気軽に日本の伝統文化の魅力を感じることができる学びと交流が育まれる施設とします。

日本庭園

芸術文化施設間の連携を強化し、来園者にとって入りやすく、親しみやすい環境づくりを行います。また認知度の向上を図り、より多くの人々に日本庭園の芸術性や文化性、茶道の心得などを体感し学ぶことができる施設とします。

③文化財関連施設

鴻臚館跡展示館

既存の鴻臚館の原寸大模型や遺構の露出展示を活かしつつ、鴻臚館時代をわかりやすく知ることができる施設としての改修を検討します。また、ガイダンス機能に加えて便益機能を付加し、国内外からの来園者の様々なニーズへの対応を図り、誰もが親しめる学びの場となる施設とします。

多聞櫓

国の重要文化財としての価値を守るため、保全を前提としながら積極的な活用を推進し、県民・市民や観光客の認知度を高めます。ガイダンス機能や便益機能の付加については検討課題とします。

潮見櫓

学術的な検討を踏まえながら潮見櫓の復元を行います。また、解説サインの設置や歴史的景観の復元に向けた植栽など、周辺でのお城の雰囲気を感じられる環境整備を行います。

祈念櫓

学術的な検討を踏まえながら本来の姿への復元を修復整備と併せて検討します。

④広場

三ノ丸広場

県民・市民の日常的な散策や新たな大規模イベントや公園の特徴を活かした多様なイベントに対応することのできる広場とします。

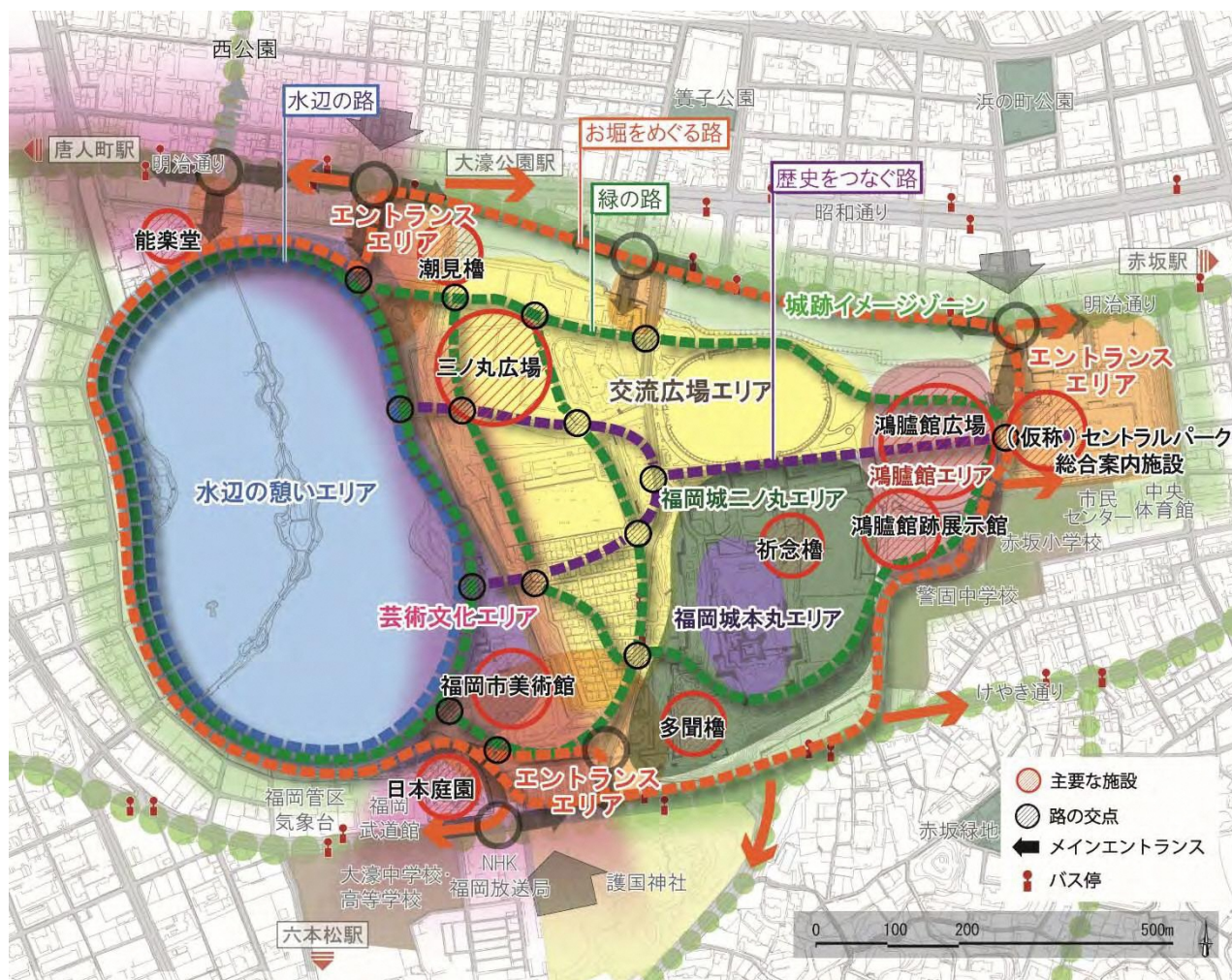
鴻臚館広場

明治通りからの玄関口であり、多くの人々の往来があることを想定し、幅広い層の来訪者が気軽に立ち寄ることのできる集客・交流イベントの実施のほか、日常的な市民の憩いの場としての利用に適した広場とします。

また、鴻臚館という施設の有していた機能、そこで行われていたことを理解し実感できる空間とします。

(4) 実施方針図

ゾーニング、主要な動線、主要な施設を重ね合わせたものを実施方針図とし、大濠公園・舞鶴公園の一体的な今後の利活用の骨格として位置付けます。



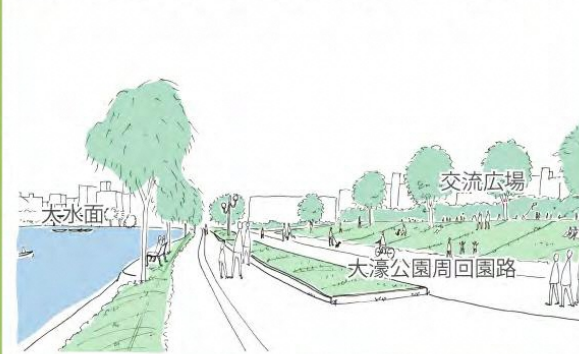
図：実施方針図

■展開イメージ

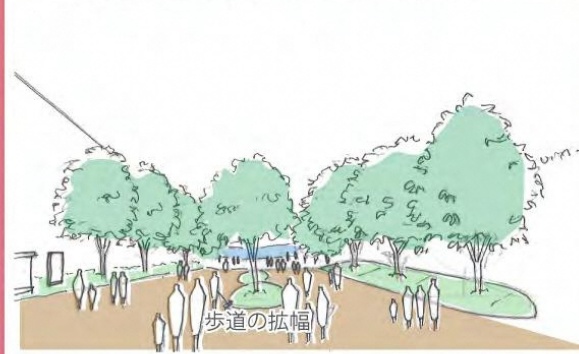
公園内の様々な場所で、利活用イメージで示した活用が展開されるよう、実施方針に沿った両公園の利活用の展開イメージを示します。



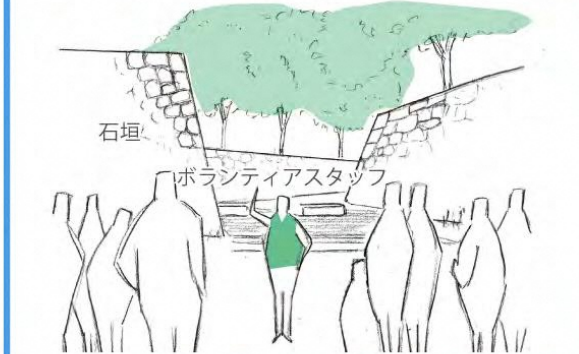
大濠公園と舞鶴公園の空間的な一体化



ゆとりのあるエントランス空間の確保



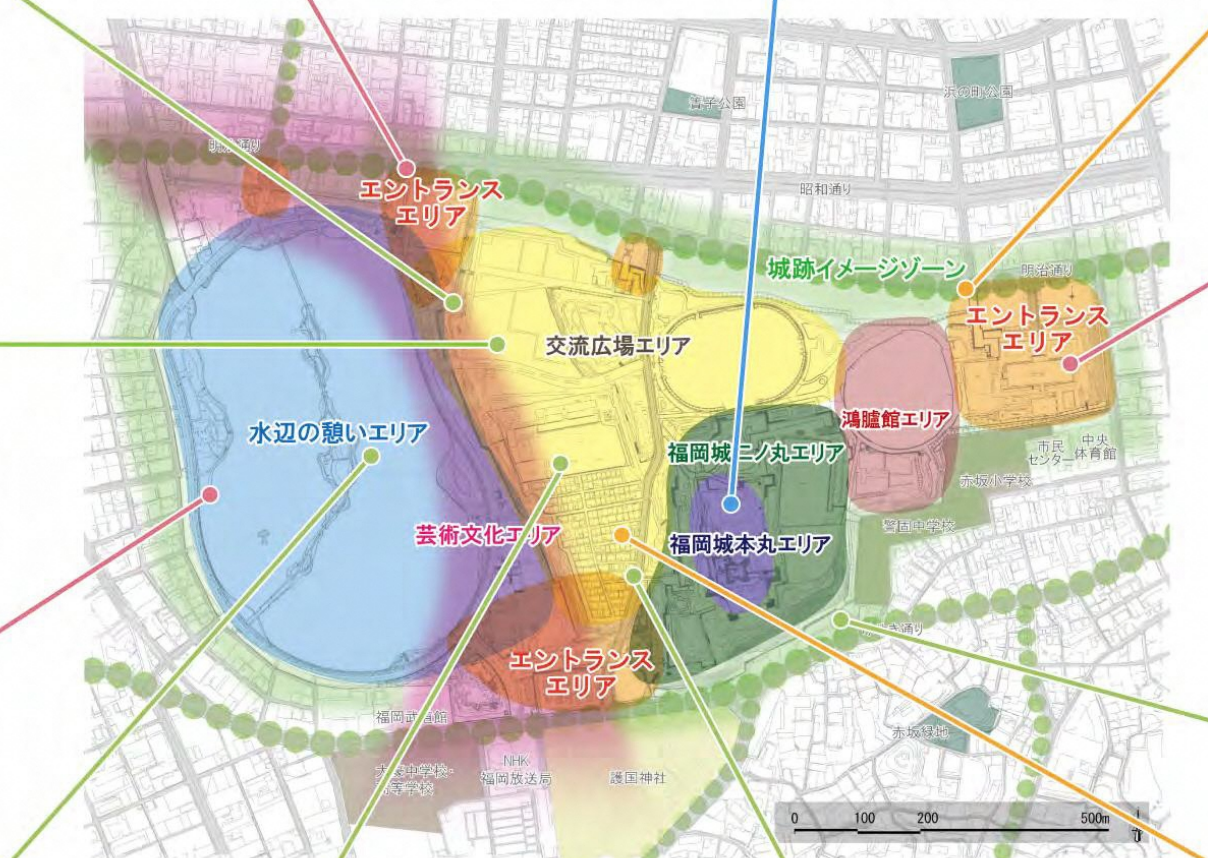
ボランティア活動しやすい環境づくり



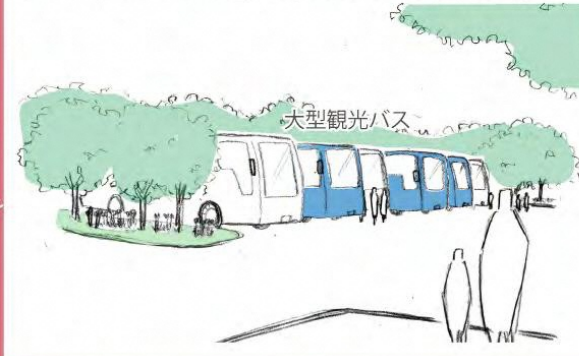
お城の雰囲気を感じられる空間づくり



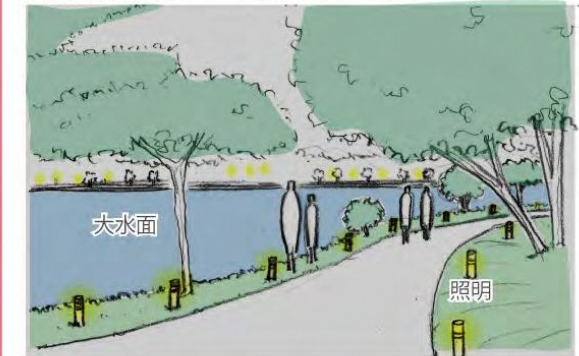
大規模イベントが行える広場の確保



大型観光バスにも対応できる駐車場の確保



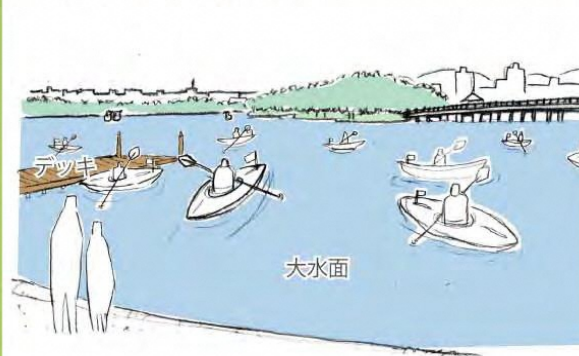
夜間利用の安全確保と魅力向上



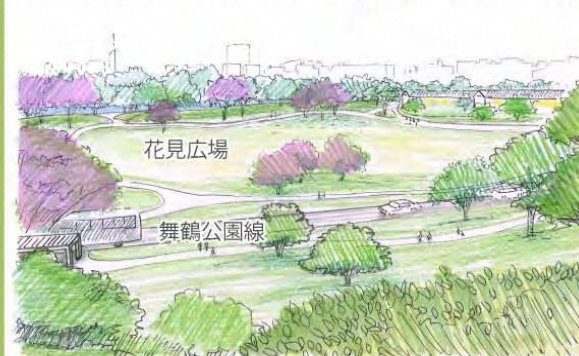
史跡や緑を楽しめる周回園路の確保



水辺空間の魅力向上



施設移転跡地の活用によるさくらの名所づくり



舞鶴公園線沿線の風景づくり



史跡の雰囲気を感じられる空間づくり

